はばプラ推進のための研究計画及び報告書

学校名　桐生市立南小学校

「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」28.12中教審答申→学習指導要領29.3告示

研究目標（達成水準）：自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童を育成するために全ての先生がはばプラに基づく授業ができるようになる。

Ⅰ　学校の現状について

1　教師がはばプラに基づく授業を十分に理解し実施できていない。

2　教科担任制で、それぞれの教師がそれぞれの指導法で指導している。

3　課題に対する自分の考えをもてない児童や自分の考えに自信をもって友だちに伝えることができない児童がいる。

Ⅱ　課題とその原因の分析について

1　はばプラの有用性を理解していていないことで、はばプラへの関心が低く、はばプラの授業をしていない。

2　はばプラの授業を柱に指導法を考えることがないため、個々で考えた指導になってしまうことで、指導が徹底できない。

3　はばプラの授業の流れの中で、児童の課題を改善する有効な手立てが見つかっていない。

Ⅲ　課題解決のための具体的な取組及び年間計画（別紙）

＊研究仮説・・・次のような取組を進めれば、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童を育成するために、全ての先生がはばプラに基づく授業ができるようになるだろう

1　『はばたく群馬の指導プラン』や『はばたく群馬の指導プラン（実践の手引き）』を全員で読み、はばプラの授業を理解し、実践する。
→講師の活用、教科部会の活用

2　教科をしぼり、国・算の教科部会で、はばプラを基にした単元の流れや一単位時間の流れを共通理解のもとに実践する。
→教科部会の活用、単元構想図・授業構想シートの活用、授業公開ウィークの活用、ＰＤＣＡサイクルでの授業実践

3　自己解決や集団解決の場面での具体的な手立てを『はばたく群馬の指導プラン』や『はばたく群馬の指導プラン（実践の手引き）』から取り入れ、実践する。
→教科部会の活用、手立ての共有化

検証方法：目標が達成できたかどうかの検証方法を書く。
できるだけ客観性のあるものが考えられるとよい。

1　授業公開・授業公開ウィークの実施・教師アンケート

2　単元構想図・授業構想シート

3　児童アンケート・ワークシート・掲示物・ノート

実　　践

Ⅳ　成果と課題

１　目標の達成状況

＜有効だった手立てについて＞

Ⅲ－１について

・教科部会を立ち上げ、教科を絞って「はばプラ」の読み合わせをしたり、話し合いを進めたりしたことは、単元の構成の仕方や授業の流れについて理解を深めながら授業を実践していくのに有効であった。

・初回の研修で、校長による職員向けの講義を実施したことで、全職員で「はばプラ」への共通理解ができた。また、指導案検討やプレ授業の際に指導主事に来校していただき、具体的な助言をいただいたことは、その後の指導案作成や授業構想するうえで大変参考になった。複数の学年の授業についての指導を聞いたことで、それぞれの教員が自分の授業にも生かせるという利点もあった。

Ⅲ－２について

・教科部会の中で単元構想図や授業構想シートを使って授業案を検討したことは、「はばプラ」を基にした単元の流れや「“めあて”から“振り返り”」までの一単位時間の流れを共通理解するのに大変有効だった。算数で使った授業構想シートは、授業のねらい、流れ、板書計画を１枚のシートに書けるため、授業を組み立てる上で有効であった。

・公開ウィークでは、教科部会で検討した授業を公開し合い、放課後に授業検討会を実施した。拡大した指導案に付箋紙を貼りながらの意見交流を行ったことで、多様な意見が出て、成果と課題が明確になり、次の授業づくりへ生かすことができた。

・実践の前に授業構成や手立てについて吟味することで、目的意識を明確にした授業ができたこと、そして、授業後に手立ての有効性について検討をしたことは、「はばプラ」に基づく授業についての理解を深めるために、とても効果的であった。１つの授業についてのＰＤＣＡサイクルだけでなく、年間を通して３回実践してきたことで成果や課題を次につなげ、目指す授業に近づけることができた。

Ⅲ－３について

・教科部会で、「単元構成と授業展開の作成」「課題解決の場面」「集団解決の場面」の３つの点において具体的な手立てを考えたことと、全学年が所属していたことで、児童に身に付けさせたいことが系統的に分かり、研究を深めていく上でとても効果的であった。

＜課題＞

・国語班と算数班で話し合ったことを共有する機会があまりとれなかった。短い時間でも全体で共通理解の場をとったり、重要なことは学年やブロックで伝えてもらったりすることを意図的に繰り返すことが大切だった。

・全ての授業の参観や検討会への参加は時間的に難しかった。特に、検討会は放課後を中心に行うため、時間設定などに課題が残った。

・授業構想シートを作成するのにも時間を要するため、もう少し簡略化し、日々の授業で使いやすくなるよう改善をしていきたい。

・授業を参観し合い、検討会を実施するためには、研修に位置づけた時間だけでは足りず、別日に時間をとって集まることも少なくなかった。限られた時間の中で、いかに計画的に実践していくかが、今後の課題である。

２　次年度の取組

今年度の成果と課題を受け、国語科と算数科においては引き続き「はばプラ」に基づく授業の実践に取り組むとともに、他教科にも広げていけるよう、日々の実践に努めていきたい。

また、次年度の校内研修では、「はばプラ」を活用した道徳科における学び合いを通して、自分の思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童の育成を目指していきたい。

「はばたく群馬の指導プラン」推進のための実践研究について

Ⅰ　研究の目的

平成２８年１２月に出された学習指導要領の改善に向けた中央教育審議会の答申では、次期学習指導要領は、「何ができるようになるのか」という観点から、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という子ども達の具体的な学びの姿を考えながら授業を構成していく必要があると述べられている。その「どのように学ぶか」という学びの質を高めるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取り組みを活性化していくことが重要であることも述べられている。

本指定では、この日々の授業を改善していくための視点を「はばたく群馬の指導プラン」とし、「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業が実現されることが、次期学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると考え、実践研究を行ってきた。

新学習指導要領
「何を学ぶか」「どのように学ぶか」
＊具体的な学びの姿を考え授業を構成していく

「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業の実現
＊考えたことを表現する力や日常生活と学習とを結びつける力を身に付けさせる

⇩　⇩

「主体的・対話的で深い学び」の実現

Ⅱ　研究の内容

「はばたく群馬の指導プラン」（以下「はばプラ」という）に基づく授業の実現に向けた授業改善を組織的に行うため、以下の２つの視点から研究を進めてきた。

１　校内の全ての教員が目指す授業ができるようにするために

（１）校内研修における教科部会の活用

本校では、昨年度の校内研修において、習得と活用に焦点を当て、互いに学び合う児童の育成を目指し、各教科で研究を行ってきた。今年度は、昨年度の研修を生かした「学び合い」を単元構想図の中に位置づけることで、「はばプラ」を意識した単元構想・授業構想を目指した。

研究をより深められるよう、国語・算数の２つの教科部会を立ち上げた。各学年からそれぞれの部会に所属することで、系統的に研究を進めていくこととした。

国語班	１・２・３・４・５・６年 特別支援学級担当、音楽専科、教頭
算数班	１・２・３・４・５・６年 算数少人数、校長、支援員

教科別研修のメンバー構成

（２）講師の活用

「はばプラ授業実践」研修の初回では、本校の校長を講師に、「はばプラを上手に活用した授業を行うために」と題して、職員向けの講義を設定した。

また、1 学期指導訪問前の指導案検討や、公開授業に向けてのプレ授業には、東部教育事務所や桐生市教育委員会の指導主事に来校いただいた。単元や授業を構成する段階から、授業後の成果と課題まで、一貫して見ていただきご指導いただくことで、よりよい授業を作り上げられるようにしてきた。

（３）授業公開ウィークの活用

昨年度、校内研修で２学期に取り組んでいた「一人一授業公開」を、今年度は「はばプラ」に基づく授業に限定して、期間を長く取り、実施した。１学期の授業実践を生かすとともに、めあてを達成するのに最も効果的な手立てが講じられるよう、夏休みに教科別研修（指導案検討）をし、授業を構成していった。

教科班ごとに可能な範囲で参観することとし、放課後には参観者のみでミニ検討会を開き、成果と課題等について話し合った。

国語班　校内公開授業

10/25	４年「読んで話し合おう～ごんぎつね～」
10/30	２年「音読劇をしよう～お手紙～」
10/30	６年「自分の感じたことを朗読で表現しよう～やまなし～」
11/ 2	４年音楽「音楽作り」
11/ 2	５年「すぐれた表現に着目して、物語のみりょくを伝え合おう～大造じいさんとガン～」
11/ 7	３年「説明の工夫について話し合おう～すがたをかえる大豆～」
11/ 8	ふたば「にじいろのさかな」

※１年は指導訪問代表授業のため公開はなし

算数班　校内公開授業

10/10	４年「２けたでわるわり算」（少人数1）
10/13	４年「２けたでわるわり算」（少人数2）
10/16	３年「長さ」
10/25	２年「かけ算（１）」
10/31	１年「たしざん（２）」
11/10	５年「体積」

※６年は指導訪問代表授業のため公開はなし

２　各教科における「はばプラ」に基づく授業を実現するために

（１）単元構想図・授業構想シートの活用　　※校内研修資料参照

「はばプラ」が目指すところの「“めあて”から“振り返り”」までの流れを大切にするために、単元構想図、授業構想シートを活用した。昨年度の校内研修で使用していた様式を少し手直ししたものを国語・算数共通で使用した。単元構想図では、「単元のめあて・学習計画→課題解決（個別・集団）→まとめ」の流れを基本に、単元計画を考えた。授業構想シート（算数のみ。国語は本時の展開）では、「めあて・既習事項とのつながり→個別解決・集団解決→まとめ・振り返り」の流れを基本に、目的に合った手立てを講じられるよう、授業を組み立てた。

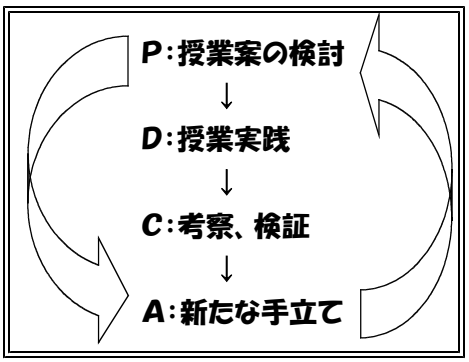
（２）手立ての共有化　　※校内研修資料参照

校内研修の教科部会の中で、「目指す児童像に迫るための手立て」について話し合い、共有化を図った。手立ては、「単元構成と一単位時間の授業展開の作成において」「課題解決の場面において」「集団解決の場面において」の３つの場面に応じて具体的に考えた。学期ごとに実践した手立てを書き足していき、授業を考えていく上での手助けとした。

（３）ＰＤＣＡサイクルでの授業実践

今年度は、１回目の授業実践を１学期の指導訪問にあて、全ての教員が「はばプラ」に基づく授業を公開した。２回目の実践は、２学期の授業公開ウィークで、期間を長く取り、その中で互いに見合う時間をとりやすくした。３回目の実践は、１月の公開発表にあてた。

学期に１回、授業を実践し、実践前と実践後に検討会を設けたことで、単元構想や授業構想、その中における手立てを見直し、目指す授業に近づけるようにしてきた。



Ⅲ　年間計画

月	日	内　　容	
		校内研修	校内研修との関連
4	10	企画　今年度の研修についての方向性 年間計画	
	17	全体　今年度の研修についての方向性 年間計画・昨年度からの引き継ぎ	
5	8	全体　１学期の取り組みについて 指導案形式 児童アンケートについて １学期指導主事訪問について はばプラについて	5/8　・はばプラについての講習 「はばプラに対しての基本姿勢」（校長先生） 「南小のはばプラについて」（はばプラ担当） 5/22・教科別研修 ①はばプラを活用した単元構成・１単位時間の流れ ②見通し２と３の手立て
	22	班別　単元構想・１単位時間の流れ 授業の手立てについて	5/29・はばプラ授業提案（はばプラ担当）
6	5	班別　前期指導主事訪問の授業検討 ※東部・市教委指導主事来校	6/5　・教科別研修（指導主事来校） ○はばプラを活用した授業における手立ての交流 ↓
	15	１学期指導主事訪問	6/15・国語・算数のはばプラ授業公開 （一般授業者）
7	3	企画　指導主事訪問を終えて 今後の取り組みについて	
	21	全体　指導主事訪問後の指導について 今後の取り組みについて 班別　１学期の実践報告 ２学期に向けての手立ての検討	7/21　・教科別研修 ○はばプラを活用した授業における手立ての検討・修正
	31	全体　ワールド・カフェ（教職員の交流）	
8	24	全体　CRT 分析 班別　国・算授業作り	8/24　・教科別研修 ○はばプラを活用した指導案作成 ↓
9	11	全体　授業公開に向けて 班別　指導案作成	↑ 授業公開ウィーク ↓ はばプラ授業実践
10	23	全体　指導主事訪問に向けて 班別　後期指導主事訪問の授業検討	
	30	企画　授業公開に向けて	
11	13	全体　研究授業指導案説明・プレ授業 班別　指導案検討	
	20	班別　指導案検討	11/20　・教科別研修 ○はばプラ公開授業の指導案検討・手立ての検討 ↓
	28	２学期指導主事訪問	
12	4	全体　授業公開・実践発表に向けて 班別　授業公開指導案検討・プレ授業 ※東部・市教委指導主事来校	12/4　・教科別研修（指導主事来校） ○はばプラ公開授業の指導案検討・プレ授業 12/22・教科別研修
1	15	全体　授業公開に向けて	1//15　・全体研修 ○公開授業に向けての確認
	25	はばプラ授業公開・実践発表	**1//25　はばプラ授業公開**
2	12	企画　今年度のまとめ 来年度の研修について	
	19	全体　今年度のまとめ 来年度の研修について	

Ⅳ　校内研修での取組

１　今年度の研修について

昨年度主題を「互いの思いや考えを理解し、学び合える児童の育成」副主題を「各教科における習得と活用を意識した授業改善の工夫を通して」とし、単元全体及び１単位時間における習得と活用を意識しながら授業に取り組んできた。その結果、単元構想図の中に学び合いを位置づけることによって、単元全体を見通した学び合いの設定をすることができ、単元の系統性を意識しながら、計画的に学び合いをすることができた。１単位時間内で、どの場面でどんな形態でどんな目的で学び合いをするのか意識しながら授業をすることができた。しかし、その一方で、教科が分かれてしまうことで、各自が取り組んだことを共有し、実践するところまでは至らなかった。また、児童アンケートでは、どんなことを話していいか分からず不安な様子や自分の考えに自信がもてない様子も見受けられたので、自分の考えに自信をもたせる手立てやどのような話し方をしていいか分からない児童に対しての手立てについては課題が残った。

そこで、今年度は、主題を「自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童の育成」副主題を「『はばたく群馬の指導プラン』を活用した国語科・算数科における学び合い活動を通して」とし、国語科・算数科に絞って研修を行うことにした。また、「はばたく群馬の指導プラン」の推進校ということから、「はばたく群馬の指導プラン」に基づいた単元構成や一単位時間の流れを活用することで、昨年度の児童アンケートで分かった児童の実態から主題である「自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童」を育成できると考えた。

２　研修のねらい

「はばたく群馬の指導プラン」を活用して、国語科と算数科を中心に、学び合い活動を通して、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童が育成できることを、実践を通して明らかにする。

３　研修の見通し

（１）教師が国語と算数において、目指す児童像を明らかにし、課題を解決したり学び合い活動をしたりする時間を確保するための「はばたく群馬の指導プラン」に基づいた単元構成を行い、学び合い活動を取り入れた１単位時間の授業を展開すれば、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童が育成できるだろう。

目指す児童像 国語科と算数科を中心に、学び合い活動を通して、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童 〔低学年〕話をよく聞いて、自分の考えを持ち、順序立てて表現できる児童 〔中学年〕見通しをもって課題解決に取り組み、理由をはっきりさせて表現できる児童 〔高学年〕見通しをもって課題解決に取り組み、根拠を明らかにしながら相手に伝わるように表現できる児童の育成

（２）教師が国語と算数において、課題解決の場面で、自分の考えがもてるような具体的な手立てを考えることで、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童が育成できるだろう。

（３）教師が国語と算数において、集団解決の場面を設定し、自分の考えを自信をもって伝えあえるような手立てを考えることで、自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童が育成できるだろう。

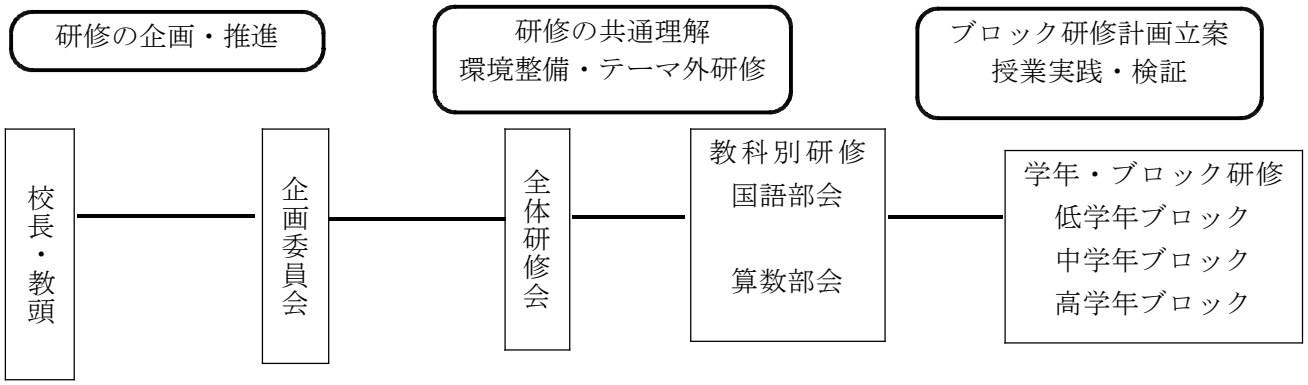
４　研修の内容及び方法

（１）単元構想図の作成と授業展開の工夫
「はばたく群馬の指導プラン」の流れに沿った単元構想図の作成・目指す児童像の作成
「はばたく群馬の指導プラン」の流れに沿った授業展開・学び合いを位置づけた授業の展開の工夫・学び合う場の設定・学習形態の工夫・学び合う目的の明確化　　など

（２）自力解決のための手立ての工夫
「はばたく群馬の指導プラン」に基づいた自分の考えをもてるための手立ての工夫・自力解決するときのノートの書き方　など

（３）学び合う場面での手立ての工夫
互いの思いや考えを理解するための話の聞き方や話し方のルール・学び合う場での友だちとの受け答え方　など

５　研修組織



６　教科別研修

今年度は国語班・算数班と２つの教科に分かれ、研修の見通しを基に共通項目を立て、国語科・算数科の教科別研修で手立ての方向性を話し合い、それを基に各自が具体的な手立てを講じ、実践した。また実践の前後で、単元構想図や略案（算数班は授業構想シート）を作成し、班のメンバーと意見交流を行った。

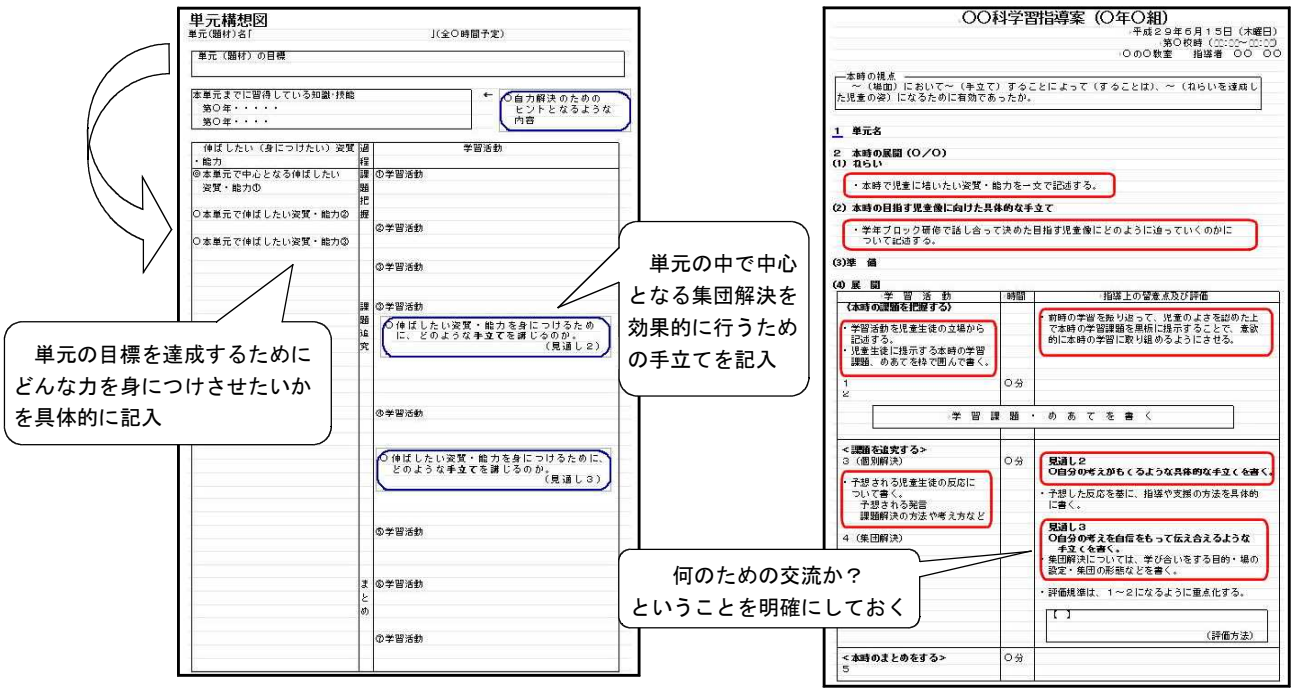
〈国語班の取組〉

①単元構想図・授業構想シートの活用

国語班では、昨年度に引き続き単元構想図を作成し、単元を通して児童に身につけさせたい力を明確に示すとともに、その力をつけさせるために最適な言語活動を設定するようにしてきた。指導者が、単元のゴールをイメージしながら指導に当たることで、児童も目的をもって１単位時間の学習に取り組めるようになった。

１単位時間の学習指導案では、今年度は、学び合いを効果的に行うための自力解決と集団解決を中心に学習活動を考えてきた。学び合いを成功させるために、児童に自分の考えをもたせ、目的や手順を明確に示してから小集団での交流ができるように授業を構成した。その中で、課題を明確にもたせることや、既習の知識を生かすことを取り入れてきた。

授業前や授業後の検討会では、「何を身につけさせたいのか」「何のための活動か」を常に念頭において話し合い、単元構成や授業の流れに一貫性をもたせるようにすることができた。

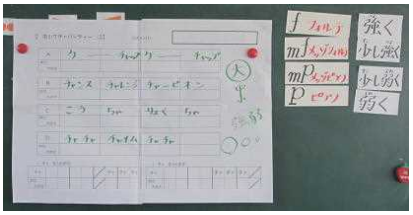


②手立ての共有化

見通し（１）単元構成と１単位時間の授業展開の作成において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
めあて・振り返り	○前時の学習を想起させ、今日のめあてにつなげる。	○単元のめあてを掲示しながら、本時のめあてを立て、児童が学習の流れを意識できるようにする。 ○前時の学習活動についてノートを見ながら確認した後、本時のめあてを伝える。 ○毎時間ノートにめあてを、その下に振り返りを書かせ、ノートを見ることで学習の流れを確かめさせる。 ○前時の学習でやったことを、確認する。
指導計画の確認	○初発の感想から、課題を設定する。	○児童の言葉を使い、学習の流れを作成し、学習計画を児童と教師で共有する。
授業の組み立て	○学年や内容によって教師が示す。 ○児童の考えを取り入れる。	○めあてを元に既習事項を想起させながら、本時の流れを作る。 ○常時活動に、これから学習する活動の基礎になる音楽遊びや即興的な音楽づくりを入れる。（音楽）
課題提示	○何を使って、どうするのかを板書に示す。	○教科書の挿絵を掲示し、児童が関心をもって学習に取り組めるようにする。 ○指示を短く簡潔にし、いつでも確認できるように板書する。 ○モデルを掲示し、見通しをもって取り組めるようにする。

見通し（２）課題解決の場面において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
習得したことの活用	○考えようとしない子を巻き込むために、考える必要性を与える。 ○既習教材の学習を想起できるような手立てを考える。 例：教科書のページを戻って見る、掲示物の保存と活用、ノート指導の工夫	 ○考えを表すときの言葉をキーワードとして掲示し、教科を問わず使う場面を設ける。 ○既習の教材で作成した資料を提示したり、ノートを見返したりさせ、そのときの学習活動を思い出させる。 ○折に触れて学習がつながっていることを実感させ、どの学習を使えば解決できるのか考えさせる。 ○説明したことを、違う児童にもう一度説明させる。 ○学習したことを一人の児童だけに言わせず、「次は」の声かけで説明をつなげていく。 ○自分の考えを近くの友達に説明させることで、既習事項を思い出させたり、自力解決への意欲を喚起したりする。
自力解決の方法の提示	○ワークシートにまとめる、全文コピーに線を引くなど、方法を具体的に提示する。 ○教師から提示する。内容によって設定時間を変える。	 ○物語文では、それぞれの人物や気持ちと行動など、観点を絞り線を引かせる。 ○自力解決のヒントとなる例を示す。 ○自力解決に入る前に、全体で簡単に気づきを交流し、考えるきっかけを作る。 ○気持ちの変化を心情曲線に表す。
自力解決の時間の確保	○子どもの表情やつぶやきを教師が見取る。	 ○ワークシートを数種類用意し、解決の手がかりを実態に合わせて提示する。 ○わからないときには、首をかしげたり、「わからない」と発言したり、自分の意思を表現させる。 ○自力解決の時間を限定することで、短い時間で集中して気づいたことを自分なりにまとめさせる。 ○自力解決の時間がどのくらい必要かを子どもたちに聞き、それをもとに時間設定する。
「わからない」と言える雰囲気作り	○意思表示をさせる機会を意図的に作る。 ○意思表示しやすい方法を用いる。 例：挙手、ハンドサイン　等	○ハンドサインで一斉に挙手させ、全員が意思表示できるようにする。 ○挙手や発言の回数を増やし、自信をもたせるために、誰でも答えられるような簡単な質問を数多く行う。 ○よい記述やつぶやきを取り上げることで、自分の考えを表現すること、人の考えを知ることの良さを感じさせる。 ○一言でも自分の感じたことや考えたことを言う機会をつくる。（誰かと同じでも「同じです」と言う。） ○事前に、交流の際に自分の考えがまとまっていないくても心配しないよう話す。

見通し（３）集団解決の場面において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
交流の目的	○交流の目的によって、交流の形態を考える。 例：見通しをもつ →　ペアなど 他の考えに触れる、考えを深める →　３～４人、等質・異質 まとめる、多様な考えに触れる →　全体	○「考えを聞くため」「発表するため」など、と次の活動の目的を伝えてから、交流を行う。 ○目的による交流形態を教室内に掲示し、児童自ら考えて選択できるようにする。 ○目的意識や視点をもたせて、交流に入るようにする。 ○どんな言葉を使って交流するか、事前にモデルを示す。 ○交流時の子どもたちのつぶやきを教師が拾って、「なんでそう思ったの」「どこに書いてあるの」など、根拠が明確になるように問いかける。
グループ形態・編成	○何のための交流なのかという目的をはっきりさせる。	○単元や本時のめあてに合わせ、児童へ説明したときに納得できるような形態や編成を選択する。
話し方の提示	○「話し方名人」「聞き方名人」の活用	○話し合い活動の前に、「話し方名人」「聞き方名人」を確認し、ポイントを押さえて活動に取り組ませる。 ○常時意識して授業に臨ませるために、授業の始めに必要な箇所を全体で確かめる時間を確保する。
聞くポイント	○話し方、聞き方を示した評価カードの活用	○ポイントに沿った自己評価、他者評価ができるカードを作成し、活用する。 ○簡単な感想カードを作成し、◎・○・△で発表者の評価をさせる。 ○演奏したものを聴いて、どんな工夫をしていたか（音楽の基の何を使っていたか）を考えながら聴かせる。
友だちとの人間関係づくり	○伝え合うときのルール作りをする。 例：友達（の考え）を否定しない、うなずく、丁寧な言葉遣い等）	○よい受け答えができていたペアをモデルとして紹介し、児童によかった点を気づかせる。 ○考えのキャッチボールができるよう、教師がコーディネーター的立場で児童の意見をつなぎ、授業に参加しているという意識を高めていく。 ○自由に交流する場合は、日頃の人間関係にとらわれないよう、交流の条件（男女３人ずつ等）を教師側から指定する。

③ＰＤＣＡサイクルでの授業実践

１学期の指導訪問で一般授業者全員が「はばプラ」に基づく授業を実施し、授業研究会では教科別で授業の検討会を行った。指導主事に入っていただいたことで、「はばプラ」の授業への疑問点等も話題に出しながら、はばプラ授業実践のよいスタートが切れ

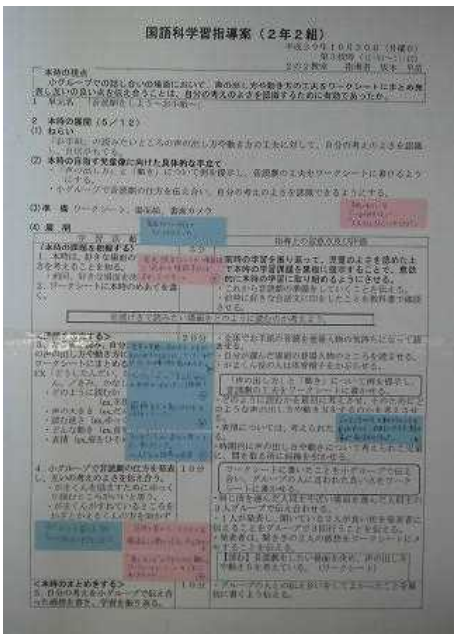
職員間でのプレ授業

た。

プレ授業後の指導案検討

夏休みには、２学期の校内公開授業に向けての指導案検討会が行われた。事前に複数の目で学習指導案を見ることで、活動や手立てについての多様な意見が交わされ、授業者も学習計画を練り直すことができ、自信をもって公開授業に臨むことができた。授業後には参観者だけでミニ検討会を行い、互いの授業の悩みなども相談しながら、活発な意見交流ができた。また、研究授業に関しては、プレ授業を数回行い、教科班で一つの授業を作り上げていこうという意識が高まった。

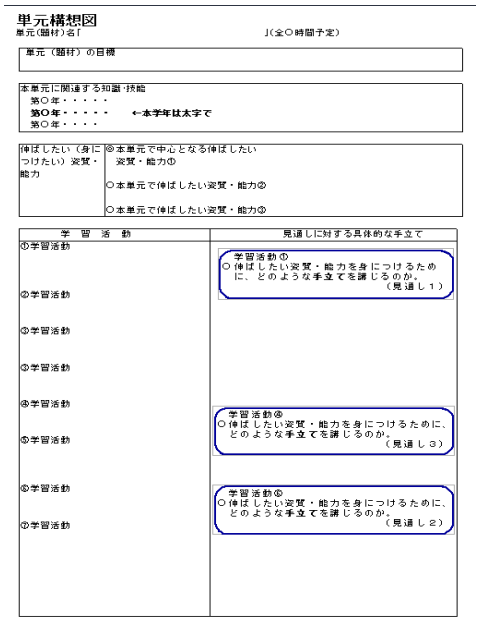
今回の公開授業に関しても、職員間での指導案検討、指導主事を招いてのプレ授業を行い、「はばプラ」に基づいた目指す授業に近付けるよう、研修を重ねることができた。

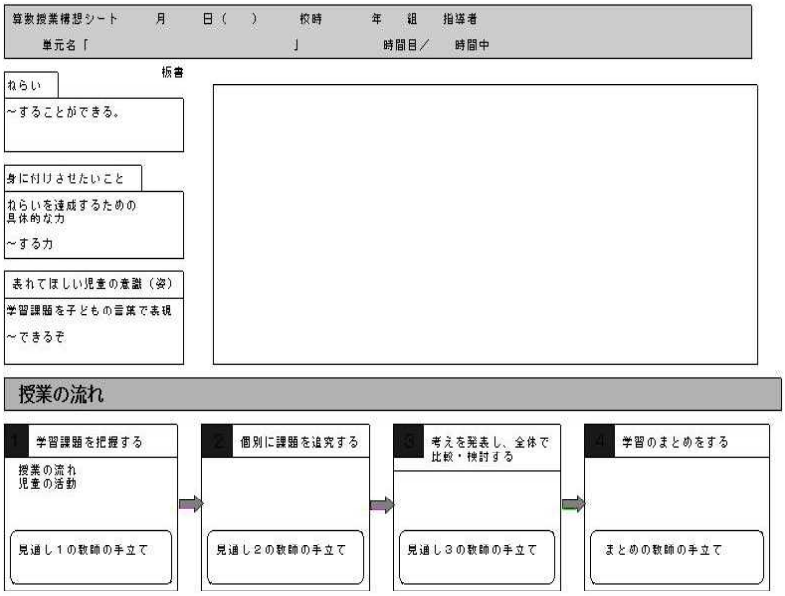


付箋紙を貼っての意見交流

〈算数班の取組〉

①単元構想図・授業構想シートの活用





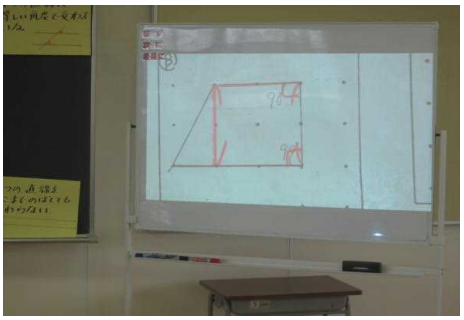
算数班では、昨年度に引き続き単元構想図を作成し、単元全体を見通して手立てを実践していくことにした。実践を重ね、単元構想図の形式も１単位時間に対してどの手立てが有効なのかが見通せるような形式に変更した。

また、授業構想シートを全員で作成し、シートを基に話し合うことで、ねらいや身につけさせたい力・児童の意識・板書計画・授業の流れ（手立ても）を把握することができ、話し合いが活気あるものになった。また、授業者も授業構想シートをもとに授業をすすめることができた。

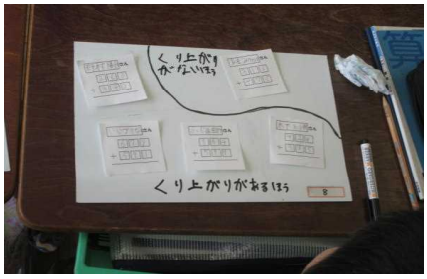
②手立ての共有化

見通し（1）単元構成と１単位時間の授業展開の作成において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
めあて・振り返り	○１単位時間の流れで「めあて」と「まとめ」を正対するようにする。	○「めあて」と「まとめ」を板書するときに四角で囲み、まとめをするときに児童にどんな「めあて」でどんなことが分かったのかを確認しながら、まとめの文を児童とともに考えながら書くようにする。 ○課題を設定するときに、「~か。」などの疑問形で提示して、これの答えになるようまとめる。 ○学習のまとめでは、キーワードを意識させながら子どもたちの言葉で記述する。 ○児童に身につけさせたいことを明確にし、児童の活動内容に合わせて「めあて」を設定する。 ○めあてに沿ったまとめを児童に考えさせてまとめるようにする。 ○前時の確認の時に、本時のめあてを予想できるような流れで行う。 ○児童がめあてを確実に把握し、解決したいという意欲を高めることができるようにする。 ○めあてを線で囲んで課題を明確にし、まとめをする時には大事な言葉を空欄・穴埋めにするなどして考えさせる。
指導計画の確認	○単元の中で、教える部分と問題解決的に進める部分を考えて指導計画を立てる。	○少人数クラスの先生と話し合い、共通認識の下、計画を立てる。 ○自分の考えを持ちやすくするために、考え方の例を図解する。 ○単元の導入部分で問題解決的な学習を取り入れる。計算の仕方（小数の乗法・除法）は授業を効率的に進めるため、教えながら進める。 ○考え方が複数出てくるもの(分数のわり算の文章問題など)については、多様な考えを交流する場を設定する。
授業の組み立て	○授業構想シートを活用する。 ○適用問題を解き学習したことを活用する時間を設ける。	○「いろいろな四角形」「２けたのわりざん」で単元構想図を作成し、その単元に関わる学習について、縦と横のつながりを意識しながら指導を進めるようにする。 ○授業構想シートは、手立てを書き込む欄と板書計画が同じ紙面に確保されているので、本時をイメージしながら効率的に指導計画を作る。 ○授業構想シートを活用することで、この活動をするときに、手立てと板書計画を並行して考えさせる。 ○「表れてほしい児童の意識」からさかのぼって授業を組み立てることで、児童の意識に沿った流れを考えるようにする。

		○まとめのあとに適用問題をすることで本時の学習を振り返り、さらにその定着が図れるようにする。
課題づくり	○課題づくりにつながる問題づくりの工夫 ・場面をつかみイメージしやすくする ・既習との違いに気づかせるなど	○復習として前時に学習した計算をした後に本時の問題を提示することで、本時の課題に気づき、見通しをもつことができるようにする。 ○本時の課題と前時に学習した内容とを比べて、どんなところが違うのかに気づくことで、本時の課題に気づかせるようにする。 ○問題を読み取る中で、これまで解いてきた問題との違いに気づかせ、課題をもたせるようにする。 ○復習問題を解かせることで、規則性がありそうなことに触れさせ、課題をとらえやすくする。 ○図形の学習では視覚的にとらえやすくするために、実物投影機を使用する。また、問題文の数値を空欄にして既習事項との違いを考えさせる。  ○導入で前時の復習をし、本時の課題との違いを児童に考えさせるようにする。 ○問題文の他に絵・写真・具体物を用意して視覚的にとらえやすくさせる。

見通し（２）課題解決の場面において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
全員が自分の考えをもつための工夫	○考えようとしない児童をまきこむために、考える必要性を与える。	○既習事項を振り返らせ、見通しをもたせる。ペア学習で得意な児童が不得意な児童に対してヒントを示せるように座席を配慮する。 ○式と式を色々なパターンで比べられるように、付箋紙に書かせ、貼りかえができるようにする。 ○問題解決的な学習では、既習事項を想起させ、必ずヒントを与えてから個々の課題解決に取り組ませる。 ○既習事項の確認をしたり、児童同士で相談させたりする時間を作る。 ○自分の考えを具体的に操作しながら考えられるように、ホワイトボードに紙を貼り付け、自由に動かせるようにする。  ○具体物を提示することによって、見通しをもって自分の予想を立てさせた。また、「一度で量るには」という条件を与えることによって、観点を絞って考えさせる。 ○数字からも図からもアプローチできるよう表や図を示す。

		○既習事項を押さえてそれをもとに考えさせ、ブロックや計算カードの操作活動を取り入れる。
習得したことの活用	○習得したことを想起させたり活用させたりする場を設定する。 ・ノートで次時につなげる。 ・既習事項や用語などの掲示物を工夫する。 ・図のかきかたを系統的に指導する。 ・具体物・半具体物などを活用した算数的な活動を取り入れる。など	○減法の場面を想起するために、既習の言葉や絵・図を確認しながら考えさせる。 ○今まで学習してきた方法（ブロック・図・筆算など）を使って考えさせる。 ○課題解決を進めるにあたり、ヒントになりそうな既習事項を意図的に振り返らせ、見通しをもたせる。 ○確かめ問題で桁数の大きいわり算の問題を出題し、わり算のきまりを使うと簡単に計算できることのよさを感じさせる。 ○ 数直線をかいて立式する仕方を系統的に指導する。 ○ノートの書き方を細かく指導し、自分のノートで振り返りをさせる。 ○導入で前時までの復習をしたり、学習を振り返ることができるようなノート作りに努めたりする。 ○習得した道具を確認し、その良さや違いに気づいていけるようにする。 ○解決の見通しをもてるよう、既習の考え方などを掲示する。考え方に子どもたちなりの名前をつけさせ、親しみをもって活用できるようにする。 ○ポイントになる言葉のカードを用意し、いつでも活用できるようにした。横黒板に繰り上がりのあるたし算の 36 枚の計算カードを貼っておき、自由に動かしたりめくって答えを確かめたりできるようにする。
自力解決の時間の確保	○適切な時間の設定をする。 ○計画的に自力解決の場を設定する。 ○早くできた児童には多様な考えを持たせたり、説明の仕方を考えさせたりするなど、個人差に応じた支援をする。	○自力解決の時間は短く（５分～１０分）設定する。○早くできた児童は、先生役となり席を離れて苦手な児童　のお助け役として活動させる。 ○自力解決の時間を確保するため、既習事項の確認が短時間でできるよう掲示物を黒板に貼る。 ○自分の考えが正しいか確かめたり、自分の考えを補完したりするために周りの児童のノートを自由に見て回る時間をとる。 ○早くできた児童には他の考え方で解決するように伝え、解決方法を複数考えさせる。 ○早くできた児童には別の考え方を考えさせたり、ホワイトボードに書かせたりする。自力解決に戸惑っている場合には、児童同士で相談させたり、既習事項の確認を再度行ったりする。
「わからない」と言える雰囲気作り	○子どもの表情やつぶやきを教師が見取	○「わからない」と素直に言えた児童を賞賛し、「わからない」と言ってもいいんだなと思える雰囲気作りに努めた。また、「わからない」と言わなくても、自力解決の

	る。 ○意思表示をしやすい方法を取り入れる。 例　挙手、ハンドサインなど	時間には鉛筆が進んでいない児童に声をかけるようにする。 ○わからない児童には意思表示をさせ（挙手、立つ）、わかる児童に説明をさせる。 ○間違えた解答をもった算数が得意な児童を意図的に指名し、そこから正答を導くことで、誰でも間違えはあるという雰囲気を作る。 ○リレー形式での説明を取り入れ、出来るだけ全員が発言することができるようにし、困っている児童には出来る子が助けてあげる雰囲気を作る。

見通し（３）集団解決の場面において

項　　目	手立ての方向性	具体的な手立て
交流の目的	○何のための交流かを意識させる。 例　発表の自信をつけさせる、定着を図る、多様な考えに触れさせる、比較・検討する。など	○ペアで話し合うことで、どの子にも説明する機会を与えるようにする。 ○交流する前に、「は・か・せを見つけるんだよ」など、交流して何をしたいのかを明確にしてから交流するように心がける。 ○多様な考えに触れさせ、課題の自力解決のヒントとなるようにする。ヒントを得ながら自力解決することで自信をもたせる。 ○児童同士が教え合える場を設けるために交流させる。 ○児童同士の教え合いの場、多様な考えを知る場、自信をつける場などの目的に応じて取り入れる。 ○長さを測る道具を友だちに確認してから活動を行うことで、道具の検討が合っているかを確認しながら、活動を行う。 ○自分の考えを話すことに自信をつけさせるために、隣の席の子同士で説明をさせる。
グループ構成の配慮	○実態や目的に応じたグループ構成の配慮をする。 人数…２人、３人、４人、全体など 組ませ方…隣同士、話しやすい児童同士など	○隣同士で説明し合うときに、2 人とも何も言えないということがないように、座席に配慮する。 ○隣同士や３・４人グループだけでなく、時には、席を移動し、話しやすい好きな児童と話したり、違う考えをもっている児童を探させたりすることも行う。 ○事前テストをもとに、得意な児童と不得意な児童を組ませる。 ○ペアからグループなど、限られた時間の中で、よりたくさんの考えが聞けるように配慮する。

		○ペアで解決しなくてはいけない時、お互いに黙ってしまうことがないよう、メンバーを配慮したり３人組にしたりする。
話し方の提示	○モデルとなる話し方や用語を提示する。 例 ・「話し方名人」「聞き方名人」の活用 ・「はじめに」「次に」などのつなぎ言葉や使わせたい用語をカードにして示す。 など	○「聞き方名人」「話し方名人」の確認をして話し合いを始め、基本的な話し方・聞き方の定着を図る。 ○「算数説明アイテム」として、「まず」「次に」「最後に」や「一の位」「くり上がる」「くり下げる」などの説明に必要な用語を提示し、このアイテムを使って説明できるようにさせる。 ○友達の意見に対してどんなことを話せばいいかなどの確認を繰り返す。
友だちとの人間関係づくり	○間違えても大丈夫だという雰囲気づくりをする。 ○友達の考えを尊重する場を設定する。 例 ・友達の考えを復唱する。 ・図や式から友達の考えを読み取る。など	○発表している児童にうなずきながら聞き、終わったら拍手するように伝える。 ○自分と同じような考えをもった友達がいれば、共同で考えを書けるよう、意見を集約できる画用紙を渡す。 ○板書には意見を発表した児童の名前を書いて、その意見をノートに書かせる。 ○同じ考えを持つ児童を複数指名し、リレー方式で発表をさせる。 ○友達と同じ考えか、違う考えか、似ているかなど聞くことで、友達の考えを認められるようにする。 ○間違えた考えが出たとき、「どうしてこのように考えたのかな。」と全体に返すことで、修正のポイントを見つけ、誤答を生かすようにする。 ○互いの意見を尊重するために、発表内容と発表者の名札をつけた。付け足しや異なる意見についても同様にする。

③ＰＤＣＡサイクルでの授業実践

１学期の指導主事訪問で、研究授業者以外全員が一般授業を行い、授業の内容についての検討を教科別研修で行った。指導主事訪問で授業を見合った後、授業研究会では、検討した内容がどうだったかについて活発な意見が交わされた。

また、夏休みの教科別研修では、２学期に行われる授業に対して、全員が授業構想シートを作成し、教科別研修で検討を行った。授業構想シートを用いて検討したことで、ねらいや身につけさせたいこと・児童の意識・板書計画・授業の流れ（手立ても）を把握する

授業後の授業研究会

ことができ、１学期以上に話し合いが活気あるものになった。その後、授業を見合い、ミニ検討会を行った。

職員間でのプレ授業

さらに、研究授業者の授業については、何度も指導案検討やプレ授業を重ねながら、１単位時間の流れの中で、課題把握→自力解決→集団解決をどのように流していくのか、掲示物をどのように利用するのか、自力解決や集団解決でどのような発問や声がけをしたらいいのかなど、細かいところまで検討した。教科別研修を重ねることで、研究授業者の授業について話し合うだけでなく、自分の今行っている授業に対しての取り組みを情報交換し合うことや、研究授業の検討を通して共通理解を図りながら同一歩調で自分の授業に取り組むこともできた。

今回の公開授業に対しても、授業者は構想シートを使って説明して意見を交流したり、指導主事を招いてのプレ授業を行ったりした。何度もＰＤＣＡサイクルを行いながらの授業実践をすることによって、一人の授業ではなく、班全員で授業を作っていくことを通して、それぞれの実践に反映し、班員全員の手立てとなっていくことにつながったと思われる。

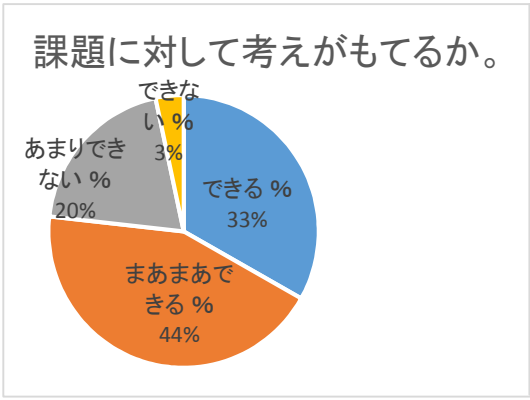
授業構想シートを使って授業説明

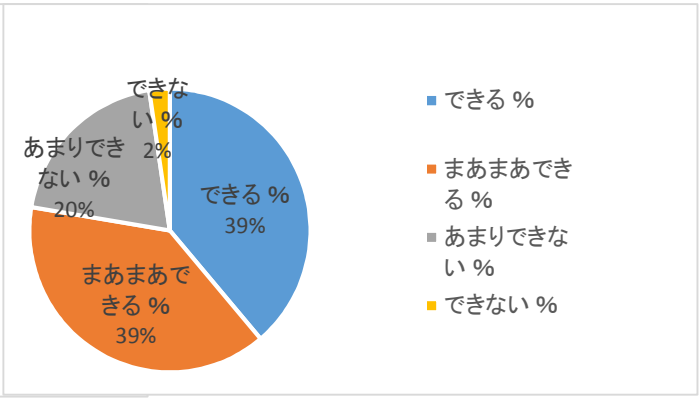
指導主事を交えてのプレ授業

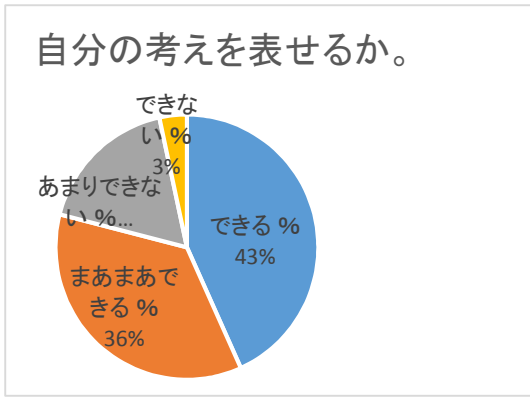
７　児童・教職員アンケートの結果から

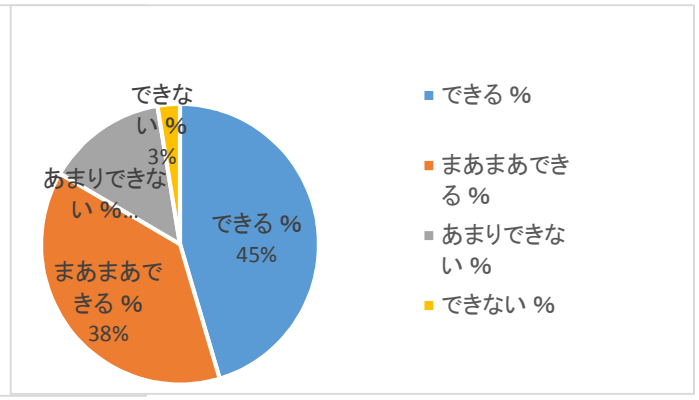
５月と１２月に自力解決や集団解決に関する項目のアンケートを行った。見通し１・２・３で「はばたく群馬の指導プラン」の流れや個別解決・集団解決の手立てを授業で実践した結果、「課題に対しての考えがもてた」の項目に対して、良い結果が出始めている。「考えがもてた」理由としては、紙面の都合からグラフは割愛したが、「課題の内容が分かったから」が４３％と前回よりも９％も上回った。「自分の考えを表せるか」の項目に対しては、「できる」「まあまあできる」と答えた児童が前回よりも４％上回った。「自分の考えが表せた」理由については、「表し方が分かったから」（５４％）「くり返しやっているから」（３０％）「教えてもらったから」（２１％）と、どれも１回目よりも上回った。自力解決のための手立てを実践した結果が少しずつ表れてきていると考えられる。「友だちに伝えるのは好きか」の項目に対しては、「好き」と答えた児童が４％増加した。「伝えるのが好き」の理由は、「知ってもらいたいから」（３８％）「話すのが好き」（２７％）だった。友だちに自分の考えを伝えたい・楽しいという気持ちが高まってきたと考えられる。「友だちの話を聞くのは好きか」の項目については、「好き」と答えた児童が７％上回った。「考えを聞くのが好き」な理由は、「勉強になる」が４３％と一番高く、前回よりも９％上回った。交流をすると、友だちの意見は自分のためになるという意識が高まってきたと考えられる。

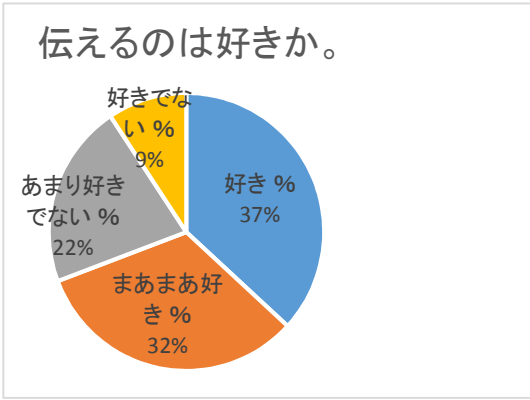
１回目　　２回目

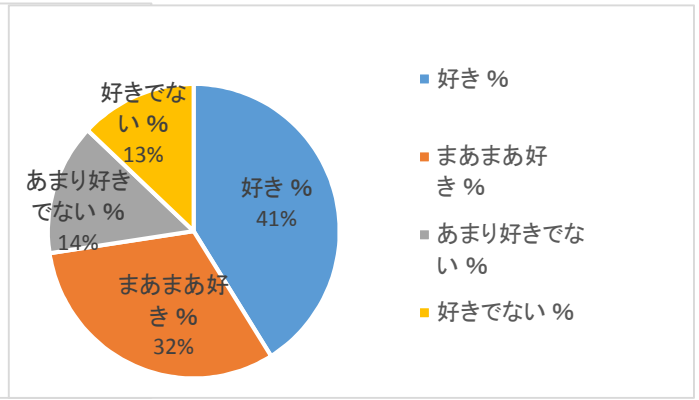

課題に対して考えがもてるか。
できない %
3%
あまりできない %
20%
できる %
33%
まあまあできる %
44%

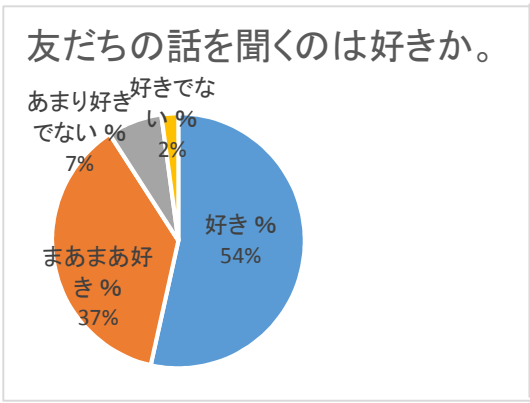

できない %
2%
あまりできない %
20%
できる %
39%
まあまあできる %
39%
できる %
まあまあできる %
あまりできない %
できない %

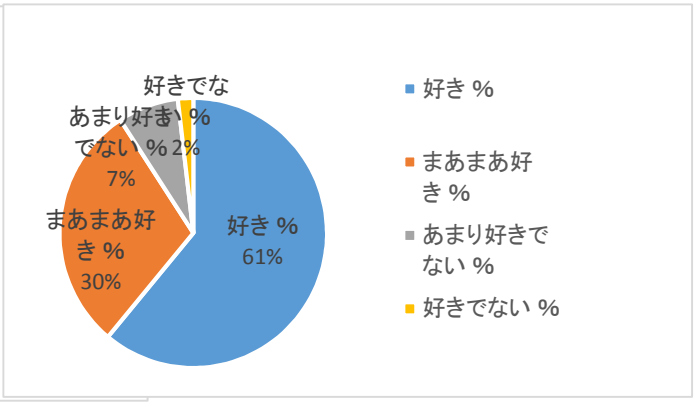

自分の考えを表せるか。
できない %
3%
あまりできない %...
できる %
43%
まあまあできる %
36%


できない %
3%
あまりできない %...
できる %
45%
まあまあできる %
38%
できる %
まあまあできる %
あまりできない %
できない %


伝えるのは好きか。
好きでない %
9%
あまり好きでない %
22%
好き %
37%
まあまあ好き %
32%


好きでない %
13%
あまり好きでない %
14%
好き %
41%
まあまあ好き %
32%
好き %
まあまあ好き %
あまり好きでない %
好きでない %


友だちの話を聞くのは好きか。
あまり好きでない %
7%
好きでない %
2%
好き %
54%
まあまあ好き %
37%


好きでない %
2%
あまり好きでない %
7%
まあまあ好き %
30%
好き %
61%
好き %
まあまあ好き %
あまり好きでない %
好きでない %

教職員アンケートでは、児童アンケート結果を受けて、どのような成果と課題があるのかについて聞いたところ以下のような結果となった。

（成果）

・見通しをもたせて、個別や集団解決につなげたこと、解決の具体的なやり方の指導により、「楽しい、できる、分かった」が少しだけ増えた。
・個別解決の手立てや集団解決のペアやグループでの交流を取り入れたことにより、授業を「楽しい、まあまあ楽しい」と答えていた中・上位群が上位に移動する様子が見られた。
・めあての文末を「～か考えよう」にして考えを求める回数を増やしたことで、課題解決に慣れてきたように思われる。また、他人の考えを聞くことに学ぶ喜びを感じていると思われる。
・繰り返しいろいろな教科や場面で交流させたことにより、友だちのよいところを取り入れようという気持ちが育ってきた。日頃支援の必要な児童もまわりの友だちに励まされたり、力にあった役割をもらったりすることによって活動できた。相互評価の場面では、友だちに対する素晴らしいフィードバックがあったので広げたい。
・課題に取り組ませる前に、見通しがもてるようなヒントを出すことによって、自分の考えをなにかしら書けるようになったと思う。
・授業の流れの中で、自力解決→小集団での解決→全体での解決という活動を多く取り入れたことで、自分の考えをもち、式や図で表現できる児童が増えた。また、友だちの考えを聞くことで、自分にプラスになるという児童が増えた。

（課題）

・本当の低位である「楽しくない、できない」を救えていない。交流に対する児童の意識はまだ低い。
・下位群の児童に「楽しくない」「自分の考えがもてない」という固定概念があり、既習事項につまずきがあることがうかがえ、下学年の内容を反復学習する機会が必要だと思われる。
・課題のもたせ方＝発問の仕方が未熟だった。考える必要感のある発問を工夫したい。
・児童の発言を他の児童にくり返し言わせているが、「児童の言葉で伝える」「児童の言葉でまとめる」を徹底できない。
・伝える手段等の工夫をしたのは良かったが、自分なりの考えがもてない児童がまだいる。児童への発問の仕方の改善や個別支援をしていきたい。

今後は、自分なりの考えがもてない低位の児童に対して、既習事項のつまずきへの支援も必要である。また、引き続き交流する目的や交流する良さに気づいていけるような手立てを継続することも必要である。

Ⅴ　成果と今後の課題

１　校内の全ての教員が目指す授業ができるようにするために

（１）校内研修における教科部会の活用

教科を絞って話し合いを進めてきたことで、単元の構成の仕方や、授業の流れについて十分に協議をして、理解を深めることができた。全学年が所属していたことで、児童に身に付けさせたいことが系統的に分かり、研究を深めていく上でとても効果的であった。また、共通の悩みや課題も相談でき、普段は話す機会が少ない他学年の先生方とのコミュニケーションをとる機会も増えたのも良かった。

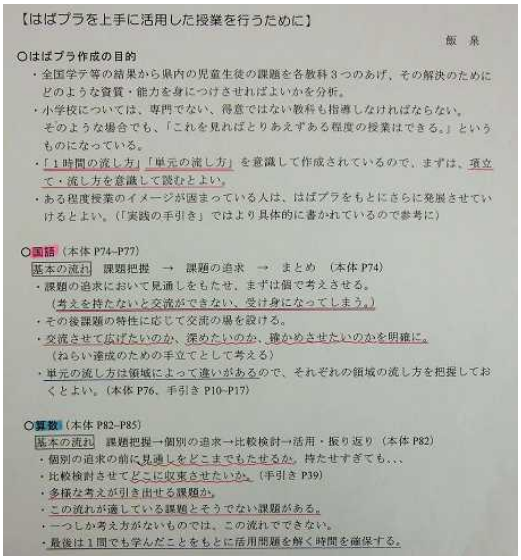
教科部会での話し合いの様子

ただ、国語班と算数班で話し合ったことを共有する機会があまりとれなかった。短い時間でも全体で共通理解の場をとったり、重要なことは学年やブロックで伝えてもらったりすることを意図的に繰り返すことが大切だった。

（２）講師の活用

年度当初、「『はばプラ』に基づく授業とはどんなものか？」という職員の不安は大きかった。研修初回の５月に、校長から「はばプラを上手に活用した授業を行うために」と題した講義をしてもらったことで、はばプラ作成の目的から、国語・算数の単元や１時間の基本的な流れについての理解を深めることができた。

また、指導訪問や公開授業前の指導案検討及びプレ授業に指導主事に来校いただき、具体的な助言をいただいたことは、その後の指導案作成や授業構成を考えるうえで大変参考になった。複数の学年の授業についての指導を聞いたことで、それぞれの教員が自分の授業にも生かせるという利点もあった。



【はばプラを上手に活用した授業を行うために】

飯　泉

○はばプラ作成の目的

・全国学テ等の結果から県内の児童生徒の課題を各教科３つのあげ、その解決のためにどのような資質・能力を身につけさせればよいかを分析。
・小学校については、専門でない、得意ではない教科も指導しなければならない。そのような場合でも、「これを見ればとりあえずある程度の授業はできる。」というものになっている。
・「１時間の流し方」「単元の流し方」を意識して作成されているので、まずは、項立て・流し方を意識して読むとよい。
・ある程度授業のイメージが固まっている人は、はばプラをもとにさらに発展させていけるとよい。（「実践の手引き」ではより具体的に書かれているので参考に）

○国語（本体 P74–P77）

基本の流れ　課題把握　→　課題の追求　→　まとめ　（本体 P74）

・課題の追求において見通しをもたせ、まずは個で考えさせる。
（考えを持たないと交流ができない、受け身になってしまう。）
・その後課題の特性に応じて交流の場を設ける。
・交流させて広げたいのか、深めたいのか、絞かめさせたいのかを明確に。
（ねらい達成のための手立てとして考える）
・単元の流し方は領域によって違いがあるので、それぞれの領域の流し方を把握しておくとよい。（本体 P76、手引き P10–P17）

○算数（本体 P82–P85）

基本の流れ　課題把握→個別の追求→比較検討→活用・振り返り（本体 P82）

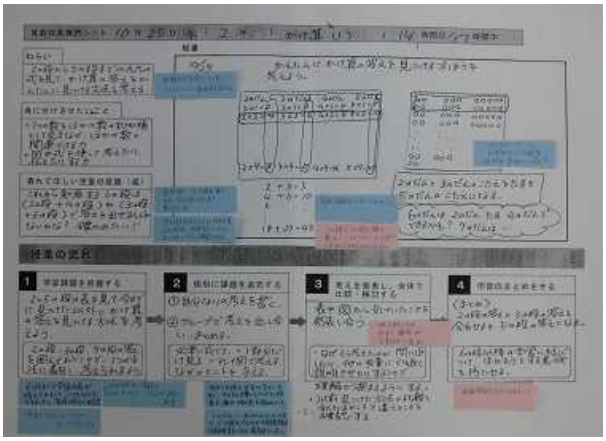
・個別の追求の前に見通しをどこまでもたせるか。持たせすぎても．．．
・比較検討させてどこに収束させたいか。（手引き P39）
・多様な考えが引き出せる課題か。
・この流れが適している課題とそうでない課題がある。
・一つしか考え方がないものでは、この流れでできない。
・最後は１問でも学んだことをもとに活用問題を解く時間を確保する。

学校長による講義資料（抜粋）

（３）授業公開ウィークの活用

教科が絞られているために期間を広く取ったことで教科内での参観がしやすかったり、たくさんの授業を参観できたことで自分の授業のヒントを得ることができたりもした。何より効果的だったのは、放課後のミニ検討会だった。拡大指導案に付箋紙を貼りながらの意見交流を行ったことで、多様な意見が出て、成果と課題が明確になり、次の授業づくりへ生かすことができた。

ただ、全ての授業の参観や検討会への参加は時間的に難しかった。特に、検討会は放課後を中心に行うため、時間設定などに課題が残った。



付箋紙を貼っての授業検討会

２　各教科における「はばプラ」に基づく授業を実現するために

（１）単元構想図・授業構想シートの活用

単元構想図を作成することで、授業者が児童のゴールの姿を意識し、見通しをもって授業づくりをすることができた。単元で身に付けさせたい力を明確にしておくことで、１単位時間の授業でどんな手立てを講じればよいのかが分かり、授業作りに生かされた。

また、算数で使った授業構想シートは、授業のねらい、流れ、板書計画を１枚のシートに書けるため、授業を組み立てる上で有効であった。参観者にとっても指導のポイントが分かりやすく、授業検討会でも活用しやすかった。

本校において、全職員が「はばプラ」の目的を達成するために、以下のような視点で授業を構成した。

単元のつくり方

＜課題把握＞
・単元のゴールが見える学習課題の設定（児童に目的を持たせる）
・学習計画の提示（児童に見通しを持たせる）

＜課題追究＞
・目的を明確にした学習活動（児童に課題解決の必要性を持たせる）
・既習事項の活用（本単元の学習との比較をさせる）
・学習形態の工夫や交流の場の設定（児童の思考を深める）

＜まとめ＞
・単元の振り返り（課題解決の道筋を自覚させる）

１単位時間の授業のつくり方

＜課題把握では･･･＞
・授業の始めにめあてを板書し、児童に学習課題をつかませる。
・見通しを持たせる活動を取り入れる。(既習事項とのつながりに気づかせる。)

＜課題追究では･･･＞
・個別に考える時間を確保する。
・既習事項の振り返り方の工夫をする。(掲示物、ノート、児童の発言等)
・一人一人が自分の考えをもてるような活動の工夫をする。
（ワークシート、目的意識のもたせ方等）
・小集団での話し合い活動など、自分の考えを表現できる場を工夫する。

＜まとめでは･･･＞
・今日の授業で分かったことを、全体で確認する場を設ける。
（次の学習につながる内容を確認させたり、今日の学習が理解できたか確認するための問題を解かせたりする。）
・今日の学習をふり返り、感想を書く機会を設ける。

単元構想図や授業構想シートの活用により、児童にも変容が見られるようになった。具体的には、単元や授業のめあてが明確になったことで授業に主体的に取り組むようになり、見通しをもって課題解決に臨むことで児童同士の交流も活発になって、学びが深まってきていることが感じられた。

しかし、授業構想シートを作成するのにも時間を要するため、もう少し簡略化すると日々の授業で使いやすくなるという課題も上がっており、今後もより活用しやすくなるよう改善をしていきたい。

（２）手立ての共有化　　※校内研修資料（アンケート結果）参照

国語、算数ともに領域を限定せず研修をしてきたが、単元構成や１単位時間の流れを作成するにあたっては、どの領域でも共通するものがあり、日々の授業の中で生かすことができた。また、課題解決や集団解決においての手立てでは、学年が違っても共有できることもあれば、系統的に手立てを講じる必要があるものもあり、それらを見通したうえで発達段階に応じた手立てを考えることができた。

特に、校内研修でも重点化していた個別解決や集団解決の手立てについては、単なる手法というだけではなく、授業者が目的意識をはっきりともつことで児童の活動に有効に働くものを取り入れることができた。一人一人に考えをもたせるための工夫、効果的な交流をするための工夫を授業者が心がけたことで、児童の授業に対する意欲も目に見えて変わってきたと感じている。

（３）ＰＤＣＡサイクルでの授業実践

実践の前に授業構成や手立てについてしっかり吟味することで、目的意識を明確にした授業ができたこと、そして、授業後に手立ての有効性について検討をしたことは、「はばプラ」に基づく授業についての理解を深めるために、とても効果的であった。それを１学期指導訪問、２学期公開ウィーク、３学期授業公開の３度にわたって繰り返し行ったことで、教員自身も自信をもって授業ができるようになってきた。

しかし、研修に位置づけた時間だけでは足らず、別日に時間をとって集まることも少なくなかった。限られた時間の中で、いかに計画的に実践していくかが、今後の課題となると思われる。

Ⅵ　終わりに

本研究は、１年足らずの短い期間の実践であったが、校内研修主任とともに話し合いを重ねきたことで、効果的に「はばプラ」の要素を取り入れることができた。これまで、様々な方法で研修に取り組んできたが、何より実践を積むこと、そしてその実践について教員同士で交流をしたことが、私たち教員の授業力向上につながったと感じている。また、いつでも「はばプラ」を片手に授業案を考えたり、検討会をしたりしてきたことで、「はばプラに基づく授業」についての理解も深まってきた。

校内研修の成果と課題からも見て取れるように、児童においても、主体的に学習に取り組み、学び合いを楽しめる姿勢が身についてきた。授業をつくる教員にとっても、学習に取り組む児童にとっても、繰り返し実践すること、また交流から学び取ることが、何よりも大切であると、この実践を通して実感した。

今後も、この研修で学んだことを活かし、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業研究に努めていきたい。

○○科学習指導案（○年○組）

平成２９年６月１５日（木曜日）
第○校時（00:00～00:00）
○の○教室　　指導者　○○　○○

本時の視点
～（場面）において～（手立て）することによって（することは）、～（ねらいを達成した児童の姿）になるために有効であったか。

1　単元名

2　本時の展開（○／○）

(1) ねらい

・本時で児童に培いたい資質・能力を一文で記述する。

(2) 本時の目指す児童像に向けた具体的な手立て

・学年ブロック研修で話し合って決めた目指す児童像にどのように迫っていくのかについて記述する。

(3) 準　備

(4) 展　開

学　習　活　動	時間	指導上の留意点及び評価
〈本時の課題を把握する〉 ・学習活動を児童生徒の立場から記述する。 ・児童生徒に提示する本時の学習課題、めあてを枠で囲んで書く。 1 2	○分	・前時の学習を振り返って、児童のよさを認めた上で本時の学習課題を黒板に提示することで、意欲的に本時の学習に取り組めるようにさせる。
学　習　課　題　・　め　あ　て　を　書　く		
＜課題を追究する＞ 3（個別解決） ・予想される児童生徒の反応について書く。 予想される発言 課題解決の方法や考え方など 4（集団解決）	○分	**見通し２** **○自分の考えがもてるような具体的な手立てを書く。** ・予想した反応を基に、指導や支援の方法を具体的に書く。 **見通し３** **○自分の考えを自信をもって伝え合えるような手立てを書く。** ・集団解決については、学び合いをする目的・場の設定・集団の形態などを書く。 ・評価規準は、１～２になるように重点化する。 【　】 （評価方法）
＜本時のまとめをする＞ 5	○分	

単元構想図

単元（題材）名「　　」（全〇時間予定）

単元（題材）の目標

本単元までに習得している知識･技能
第〇年・・・・・
第〇年・・・・

← 〇自力解決のためのヒントとなるような内容

伸ばしたい（身につけたい）資質・能力	過程	学習活動
◎本単元で中心となる伸ばしたい資質・能力① 〇本単元で伸ばしたい資質・能力② 〇本単元で伸ばしたい資質・能力③	課題把握	①学習活動 ②学習活動 ③学習活動
	課題追究	③学習活動 〇伸ばしたい資質・能力を身につけるために、どのような**手立て**を講じるのか。（見通し２） ④学習活動 〇伸ばしたい資質・能力を身につけるために、どのような**手立て**を講じるのか。（見通し３） ⑤学習活動
	まとめ	⑥学習活動 ⑦学習活動

算数授業構想シート　　月　　日（　　）　　年　「　　」　　時間目／　　時間中

ねらい

～することができる。

身に付けさせたいこと

ねらいを達成するための
具体的な力

～する力

表れてほしい児童の意識（姿）

学習課題を子どもの言葉で表現

～できるぞ

板書

授業の流れ

1 学習課題を把握する

授業の流れ
児童の活動

見通し１の教師の手立て

2 個別に課題を追究する

見通し２の教師の手立て

3 考えを発表し、全体で
比較・検討する

見通し３の教師の手立て

4 学習のまとめをする

まとめの教師の手立て

児童の実態
自分の考えに
自信がない
自分の考えが
もてない

目指す児童
○課題に対する自分の考えをもてる
○考えに自信をもって友だちに伝えること

学校教育目標
『学び、考え、行動する子』

主題「自らの思いや考えをもち、自信をもって活動できる児童の育成」

「『はばたく群馬の指導プラン』を活用した国語科・算数科における学び合い活動を通して」

昨年度の課題から
学び合いがスムーズにできる手立てや１時間の流れが必要

共通理解をはかって研修したい

見通し

（１）**目指す児童像**を明らかにし、**はばたく群馬の指導プランに基づいた単元構成**を作成し、学び合い活動を取り入れた**１単位時間の授業を展開**する。

（２）課題解決の場面で、**自分の考えがもてるような具体的な手立て**を考える。

（３）集団解決の場面を設定し、**自分の考えを自信をもって伝え合えるような手立て**を考える。

教科別研修

○手立ての方向性
○具体的な手立ての検討
○指導案検討
○プレ授業
○公開授業
（一人１授業の参観
授業研究会）

国語部会

○単元構想図の検討
○初発の感想からの課題の設定
○ワークシートや全文コピーの活用
○話し方、聞き方を示した評価カードの活用など

算数部会

○授業構想シートの検討
○１単位時間の流れでの、めあてとまとめの正対
○課題作りにつながる問題作りの工夫
○交流の目的は何なのかを明確にした集団解決など

桐生市立南小学校　研修の内容　　平成２９年度